令和八年度　自己推薦型選抜入試問題　国語

〔一〕　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私は木を相手にするのが仕事です。木は同じ樹種でも土地によって硬さやねばり具合や色合いなどが微妙に違います。土壌や雨量、気温、湿度などさまざまな自然条件の違いによって、樹液の成分などにサイ(a)が生じるのではないでしょうか。

人も同じで、大工の職人気質というようなものも、土地によって微妙に違います。

岩手の遠野から奈良の西岡棟梁のもとへ行ったとき、薬師寺金堂の現場には三七人も職人がいました。地元の奈良の人もいれば、九州から来た人もいるし、関東、北陸、北海道、四国の人もいました。それはもう全国各地から集まっていました。

そこで多くの職人と接し、思ったのは、東北人の「二番手意識」です。それは何かと言ったら、常に誰かが先にやるのを待って、それからやる、という傾向です。「石橋を叩くような慎重さ」と言えば聞こえはいいですが、要は自信のなさであったり、臆(おく)した気持ちの表われです。だから、自分から先にはやらない。いつも誰かの後からついていく。

関西の職人は違います。「退(の)け、退け」「俺が、俺が」とどんどん自己主張をする。関西には有名な文化財も多いですから、そういう態度に接すると、「やっぱり社寺の本場の職人は［A］がいいんだろうな。いろんなものをいっぱい経験してるんだろうな。知識も豊富なんだろうな」とよけいに［B］が引けてしまいます。私の場合はそうでした。

とにかく行った当初は、まわりの職人がとてつもなく立派(1)に見えて、「俺はやっぱりイナカもんだ」(b)と自信をなくすばかりでした。何をするにも「ちょっと待てよ」と自分にブレーキをかけ、「人がやるのをまずよく見てからやろう」と考えたものです。

そうした自信のなさや臆する気持ちの根っこにあったのは、東北訛りに対するコンプレックス(2)でした。同じ関西へ行って働くにしても、東京の人なら標準語ですから、別に卑屈になることもないでしょう。関西の人も「東京もん」に対するライバル心みたいなものは刺激されるかもしれないけれど、見下すようなことはないはずです。

でも当時、東北から関西に行くと、ちょっとそういう［C］で見られるところがあったのです。もちろん私が自意識過剰になっていた面もあったかもしれませんが、笑われるとやっぱりこたえるのです。

うまくコミュニケーションが取れないもどかしさ、クヤ(c)しさ。それは当然のことながら仕事の要領、段取りにも影響します。卑屈な思いを抱えながらも、社寺の技術を身につけたい一心で、必死で関西弁を覚えました。おかげで、いまでもぽろっと東北訛りの関西弁が出ることがあるほどです。

そのとき心の支えとなったのは何だったと思いますか。

自ら卑屈な意識を乗り越える原動力となったもの——。実はそれもまた東北人ならではの気質である「粘っこさ」だったのです。

こんなことを言うと関西の人に怒られるかもしれませんが、関西の人は自己主張する一方で、意外とあっさり「ここであかんかったら、よそでやったらええねん」とすぱっと気持ちを切り替えるところがあります。それだけ働き［D］があるからだと思うのですが、東北ではそうはいきません。「ここがダメだったらほかで」と簡単に仕事場を替われるほど働き［D］はないのです。選択のヨチ(d)がない。だから一度始めた仕事には必死でしがみつく。そうしないと食べていけないからです。東北人の粘り強さの源は、実はそういうところにあるのであって、けっして気候が寒いから我慢強いわけではないと思うのです。

実際、私も東北訛りを馬鹿にされても「いまに見てろ」と思い、［E］を食いしばって必死で頑張りました。人は誰しもいい面ばかり持っているわけではありません。長所もあれば短所もあります。それをうまく組み合わせてその人だけが放つ輝きとすればいいのです。

卑屈な二番手意識など、逆にそれをバネにして乗り越えるだけの粘っこい気持ちの強ささえあれば、いつか必ずコクフク(e)できます。短所は、長所と組み合わせて逆利用すればいいのです。そうすれば、必ず大きなプラスを生むはずです。いい面だけでなしに短所や欠点も生かして初めて、その人の潜在能力は十全に発揮されるのではないでしょうか。

人の心も木組みと一緒で、癖(3)があるからこそ生きるのです。

（菊池恭二『宮大工の人育て』による）

問1　傍線部(a)～(e)の片仮名を漢字に直しなさい。

問2　空欄 A ～ E に入る最も適当な身体部位を表す語句を漢字一字で答えなさい。

問3　傍線部(1)「立派」の対義語を答えなさい。

問4　傍線部(2)「コンプレックス」は、どういう意味で使われていますか。漢字三字で答えなさい。

問5　傍線部(3)「癖があるからこそ生きるのです」とありますが、具体的には何のことを指していますか。本文中から四十五字以内で抜き出して答えなさい。

問6　筆者は、東北人の気質として二つのことを挙げています。本文中より最も適当な語句を抜き出して答えなさい。

〔二〕 次の各問に答えなさい。

問1 次の各文の（　　）に入る言葉として最も適切なものを後の〔　　〕から選んで、記号で答えなさい。

① 自信なげな彼の表情に、（　　）の不安を感じた。
〔ア 一陣　イ 一律　ウ 一抹〕

② 兄は仕事が忙しいようで、休日を（　　）して働いている。
〔ア 返却　イ 返上　ウ 返済〕

③ 次に、（　　）な例を挙げて、分かりやすく説明します。
〔ア 卑近　イ 高尚　ウ 愚直〕

④ この頃は、古い小説も読むようになり、今は漱石に（　　）している。
〔ア 傾倒　イ 傾注　ウ 傾向〕

⑤ これは、新しいシステムに（　　）するための一時的な措置です。
〔ア 移動　イ 移行　ウ 移管〕

問2 次の漢字の読みを答えなさい。

① 浴衣　② 雑魚　③ 蚊帳　④ 名残　⑤ 数珠

問3 次の言葉の対義語を答えなさい。

① 湿潤　② 複雑　③ 解放　④ 損害　⑤ 禁止

問4 （　　）内の意味に合うように、慣用句を完成させなさい。

① 頭が□（すっかり感心して、敬服しないではいられない）
② 目が□（価値を見分ける力が優れている）
③ 耳に□（同じことを何度も聞かされて、いやになる）
④ 鼻を□（得意になったり、うぬぼれたりしている人を出し抜いて、あっと言わせる）
⑤ 口が□（口数が少ない、無口である）
⑥ 首を□（今か今かと待ち焦がれる）
⑦ 肩を□（一方の味方をする、ひいきする）
⑧ 手が□（自分の力では、どうすることもできない）
⑨ 腕が□（自分の技量を見せたくて、むずむずする）
⑩ 胸に□（しっかりと心にとどめて、忘れないようにする）

〈解答例〉

国語

〔一〕

問1	問2	問3	問4	問5										問6	
(a) 重厚	A 腕	粗末、未熟、下劣	劣等感	い	所	め	力							二番手意識 石橋を叩くような慎重さ	持つこさ、粘り強さ
(b) 田舎	B 膝			い	や	て	は								
(c) 海	C 月			面	欠	、	十								
(d) 全、地	D 口			だ	点	そ	全								
(e) 克服	E 歯			け	も	の	に								
				で	生	人	発								
				な	か	の	揮								
				し	し	潜	さ								
				に	て	在	れ								
				短	初	能	る								

〔二〕

問1	問2	問3	問4			
① ウ	① ゆがた	① 乾燥	① 下がる	② 剃く、肥える	③ たこができる	
② イ	② ざこ	② 単純	④ 明かす	⑤ 重い	⑥ 長くする	
③ ア	③ かや	③ 拘束	⑦ 持つ	⑧ でない	⑨ 鳴る	
④ ア	④ なごり	④ 剰益	⑩ 剃む			
⑤ イ	⑤ じゃず	⑤ 許可				